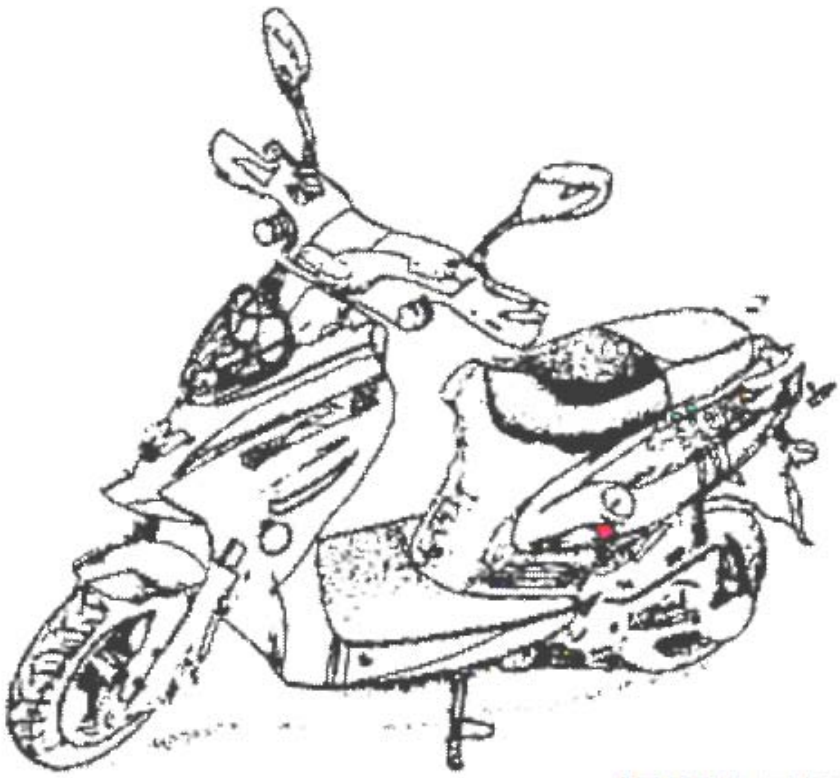
ECO Electric Scooter

SHOCK by YMs

取　扱　説　明　書



JECSA 日本電動車普及協会 加盟

製造・販売元
ワイ・エムズ

はじめに

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた　車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、定期点検整備などについて説明してあります。

車は万が一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

本書では、正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読み下さい。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記シンボルマークで表示しています。

車の受け取りの際には、お買い上げいただいた販売店から「取扱説明書、保証書」を受け取り、以下の説明を必ずお受け取り下さい。

- ○　車の正しい取り扱い方法
- ○　日常点検、定期点検整備
- ○　保証内容および保証期間

＊車を譲るときには、次の持ち主のために本書をお渡し下さい。

＊仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

安全にかかわる注意情報を示してあります。	
警告	取り扱いを誤った場合、死亡なたは重症に至る可能性が規定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が規定される場合を示してあります。
要点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントえを示してあります。

SHOCK by YM's

目次

安全運転のために　定期点検整備
名称と操作　車両情報　諸元表
充電について　保証内容
運転操作　保証書
日常点検　整備日記

◆安全運転は正しい服装から

- ○ ヘルメットは必ず二輪車用を正しく着用してください。(S、SG、JOSマークのあるヘルメットの着用
- ○ グローブを必ず着用してください。
- ○ ゴーグルまたはヘルメットにシールドを着用してください。
- ○ 運転する服装は保護性が高く、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出の少ないな長袖、長ズボンを着用し又ズボンのすそや袖口の広い服は運転操作のじゃまになりますので避けてください。
- ○ 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。又、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

警　告
ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。 運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

◆日常点検、定期点検整備を必ず行う

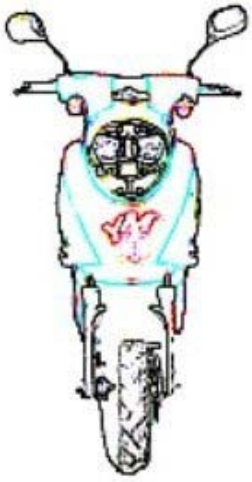
事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を運転する前に行ってください。

◆両手はハンドル、両足はフットボード

運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットボード(フロア)にのせます。

◆乗車定員は1名

運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。



◆法定最高時速は

３０Km／ｈ車の速度、

法定速度内で運転してください。

◆荷物はしっかり固定する

○ 上記およびリヤ外付けトランクいがいの場所には荷物を積まないでください。
○ 荷物を積むと、積まないときにくらべて操作安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
○ ハンドル近くには、荷物など、物を置かないでください。 ハンドル操作を妨げる場合があります。

◆急激なハンドル操作や片手運転は、絶対にしないでください。

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転落の原因となります。絶対にしないでください。

◆ヘッドライトは昼間も点灯してください。

昼間であっても走行時はヘッドライトは点灯してください。電動スクーターは走行音が小さいため、ライトをつけて事故等を予防してください。

○ ヘッドライトの前に荷物などでさえぎらないようにしてください。 ライトの熱によりヘッドライトレンズが変色、溶損したり、荷物までその不都合が及ぶこともあります。

◆車の異常

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検、整備を受けてください。

○ 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。

◆自己流の調整、部品の取り外しはしない。

◆違法改造はしない

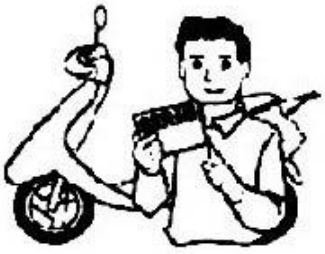
違法改造は法律により禁止されています。

改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。
また改造すると車の保証が受けられません。

注　意
部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。 規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

◆自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。
万が一の事故に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。



環境・住民の方との調和のために

◆環境へ配慮

廃車をするときや、バッテリー、タイヤなどの廃棄処理をするときは、環境保護のため、お買い上げの販売店にご相談ください。

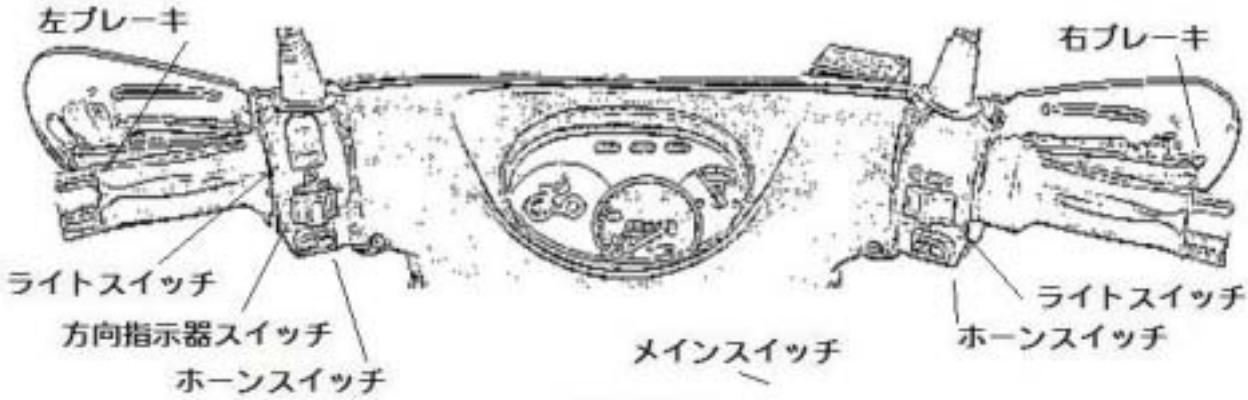
◆住民の方への思いやり

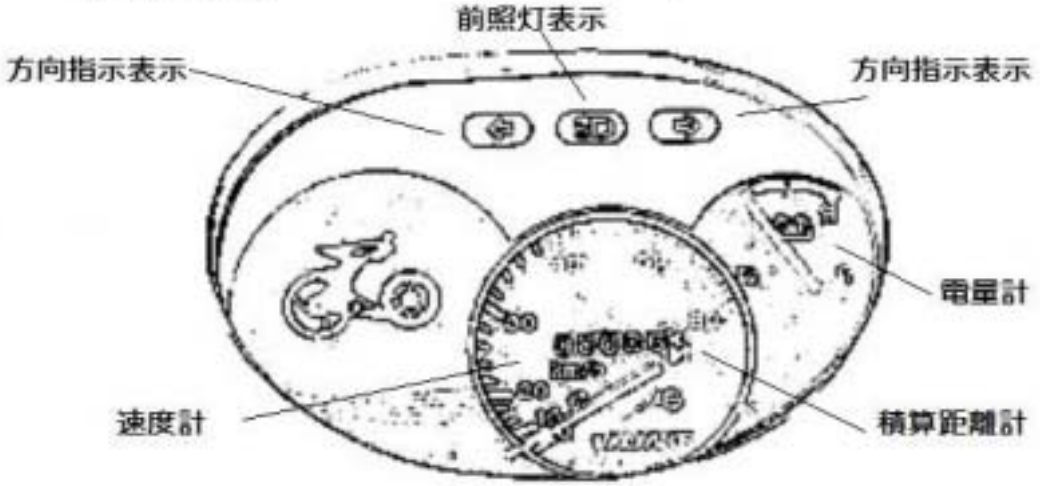
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などのご迷惑をかけないでください。特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで、無意味な急ブレーキ、急発進、不必要なホーンなど鳴らすと、迷惑になりますのでしないでください。

歩行者と他の車のために

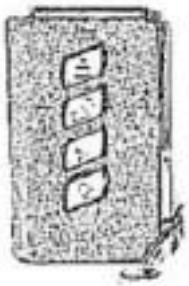
◆他人への思いやり

○ 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
○ 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
○ 歩行者や自転車のそばを通るときは安全な距離を保つか徐行してください。
○ 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
○ 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。





キーの取り扱い



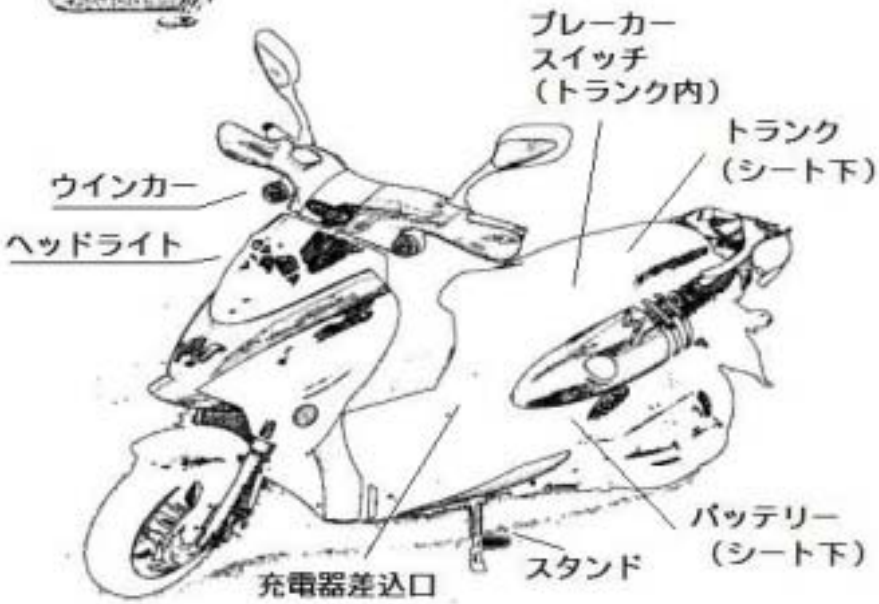
リモコン　セキュリティ　キー

1・　セキュリティ ON
2　セキュリティ OFF
3　盗難解除/キーレスエントリー解除
　キーレスエントリー　ON(二回以上の連続操作時)
4　盗難操作　ON

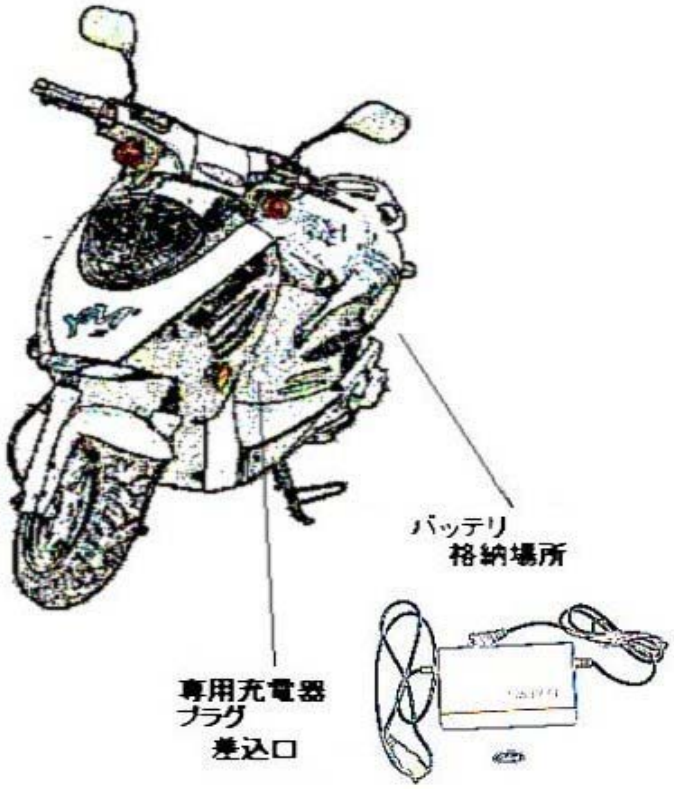
キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。

注　意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。
金属製のキーホルダーは使用しないで下さい。　また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。



充電について



○ 充電の方法

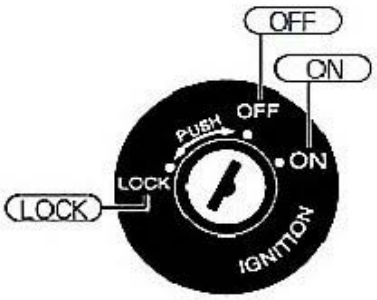
シート前部下の差込口①に、専用充電器からプラグを差し込みます。充電中になると赤色ランプが点灯します。

ランプが赤色から緑色に変わると充電完了し自動的に充電を停止します。(過充電防止機能付)

警告	充電器は雨等水に濡らさないでください
注意	故障、引火のおそれがありますので十分に気をつけてください。
放電注意 注意	バッテリーを完全に使いきらないでください。完全放電になると、バッテリーの寿命が早くなります
要点	バッテリー使用後は早めの充電をお勧めします。使用しないときでも一ヶ月に一度は充電をしてください。
警告	バッテリーケース本体の重量約30Kgあります。 取り外しの際は怪我等の無い様に注意して取り外し、取り付けしてください。

メインスイッチ

メインスイッチはモーターの始動、停止、ブレーキランプ、方向指示器などの電源の「入/切」ハンドルロック、シートのロック解除を行います。



ON

○モーター始動できます。

○キーは抜けません

OFF

○モーター始動しません。

○キーの抜き差しが出来ません。

LOCK（ハンドルロック）

○ハンドルロックします。

○キーの抜き差しが出来ます。

警　告

走行中にメインスイッチのOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

注　意

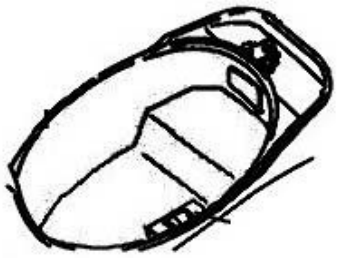
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ち下さい。
- メインスイッチをONNのまま長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

注　意

- 洗車をすると中に水が入ることがあります。大切なものは、ビニール袋などに入れて収納してください。

トランク

シート下にトランクがあります。



警　告

トランク内に積める荷物は5Kgまでです。

- 濡れたものは、ビニール袋に入れてから収納してください。　濡れたまま入れると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 食重品やこわれやすい物は入れないでください。
- トランク内は直射日光などで温度が高くなります。 熱の影響を受けやすいも物は入れないでください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- キーをトランク内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

発進のしかた

1 メインスタンドを戻します。

1 左手で後輪ブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
2 車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

警　告

メインスタンドを立てたり、戻したりするときは、スタンディングハンドルを持ってください。
スロットルグリップを握って押し出すと、スロットルグリップが廻り、車が走り出すことがあります。

2 車に乗ります。

1 車の左側から右足をフットボードに乗せます。
2 シートに腰をおろします。このとき、車が倒れないように左足で支えてください。

◆スピードの調整

スピード調整はスロットルグリップを回して行います。

戻す：

スピードが遅くなります。すばやく戻してください。

手前に回す：

スピードが速くなります。ゆっくり回してください。

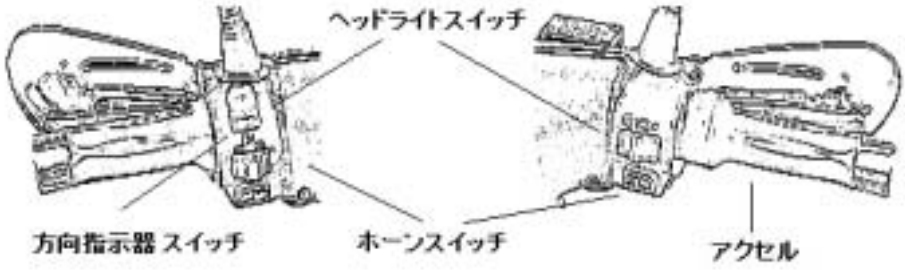
3 前後の安全を確認します。

1 方法指示器のスイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
2 前後の安全を確認します。

警　告

周りの安全を充分に確認してから発進してください。
特に雨の日や夜間は周りの状況が見えにくくなります。
より慎重な安全確認が必要です。

ハンドルスイッチの使い方



◆方向指示器スイッチ（ ⇐ ⇒）

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときはスイッチを押します。
⇒：右側の方向指示器が点灯します。
⇐：左側の報告指示器が点灯します。

要　点

方向指示器を使用すると、カチカチ音がします。

◆ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときのみ使用してください。

警　告

方向指示器は自動的に消灯しません。
使用後は必ず消灯してください。
点滅したままにしておくと、他の方の迷惑になります。

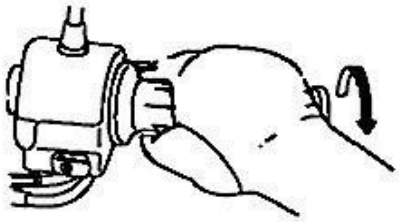
スタンディングハンドル

メインスタンドを立てるときに、リヤ外付けトランク下を右手で持ちます。

スタンディングハンドル

4　発進します。

1 後輪ブレーキをはなします。
2 スロットルグリップをゆっくり手前に回して発進します。



要　点

発進後は方向指示灯を速やかに消灯してください。

警　告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

走行するときは、不要なスロットルグリップのあおりや、急発進、急減速はしないでください。
バッテリーの消耗が激しくなります。

法定最高速度は30Km／h

ブレーキの使い方

1 スロットルを完全に戻します。
2 前後ブレーキを徐々に絞り込む様に握ります。

警　告

- 急なブレーキは避けてください。（特にどちらか一方に傾いている時）。横滑りや点灯の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。　そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。坂道では減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

止まりかた

止まる場所が近づいたら

1 方向指示器スイッチを左側にスライドさせ、左の寄る合図をだします。
2 後方の安全を確認します。
3 周りの交通に注意しながら、徐々に左に寄ります。

日常点検の実施

車を安全で快適にご使用いただくため、道路運送車両法で日常点検を行うことが義務づけられています。
運転する前に必ず実施してください。

警　告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

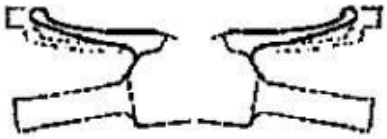
要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。

日常点検の方法

◆ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検



ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでレバーの先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。
遊びは10mm～20mm

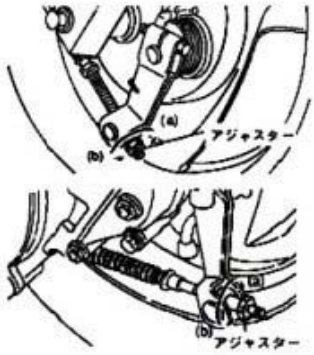
ブレーキのきき具合に点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。ブレーキのきき具合が悪いときは、販売店で、点検、整備を受けてください。

警　告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

前、後輪ブレーキレバー先端部の遊びが10～20mmになるように、アジャスターで調整します。



1 時計回り(a)に回すと、遊びが少なくなります。
2 反時計回り(b)回すと、遊びが多くなります。

調整後は、タイヤを回して引きずり、ひっかかりがないかブレーキランプの点灯状態を確認してください。

要　点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。

日常点検

日常点検場所／点検内容

詳しい点検方法は、次項以降の日常点検の方法を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。
タイヤ	・タイヤの空気圧が適当であること。 ・亀裂、損傷がないこと。 ・異常な摩擦がないこと。 ※溝の深さが充分であること。
灯火装置および方向指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において	当該箇所に異常がないこと。

(注)
※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車時)に実施をしてください。

警　告

安全のため、ご自身のご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。
難しいと思われる内容は、販売店に依頼ください。
点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

◆運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

◆灯火装置および方向指示灯の点検

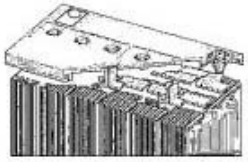
○ メインスイッチをONにします。
ライトスイッチをONにします。
ヘッドライト、テールランプが点灯するか確認します。

○ 前輪ブレーキレバー、後輪ブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

○ 方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯が、点滅するかを点検します。

○ レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

バッテリー



長期間ご使用にならないときは、
1ヶ月ごとに補充電してください。

警　告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に影響がありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。

取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。

- タイヤに異常があると、操縦安定性に支障をおよぼしたりパンクの原因になります。

異常があるときは、販売店で点検、整備を受けてください。

バッテリーの接続部、充電器接続部コンセントを水等で濡らさないようにしてください。

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密封式です。

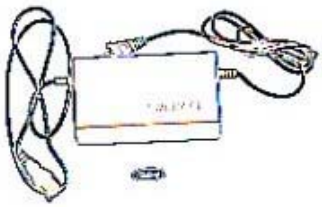
バッテリー液の補充は不要です。

バッテリーに異常があるときは、販売店で点検、整備を受けてください。

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因になることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な障害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。



応急　手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

注　意

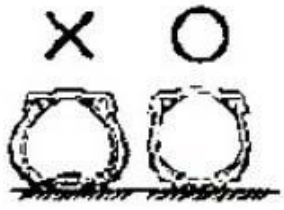
このバッテリーは密閉式の48V（12V×4）です。

- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補充は必要ありません。
- 補充電には、納車時付属品の専用充電器を使用してください。くわしくは販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、1ヶ月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

タイヤの点検の方法

◆タイヤの空気圧

タイヤの設置部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。
たわに状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。



不足　　適正

要　点

○ タイヤの空気圧は徐々に低下します。
見た目は不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1ヶ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

○ 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

◆タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの設置面や側面に著しい亀裂や損傷のがないかを点検します。
タイヤの設置面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみこんだりしていないかを点検し、整備を受けてください。

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

◆タイヤの溝の深さ

安定したコーナーリングや操作性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。
一般的に原付のタイヤは前後ともに溝の深さが1.6mm以下になりましたら交換をおすすめします。

◆タイヤの異常な磨耗

タイヤの設置面が異常に磨耗していないかを点検します。

警　告

- タイヤを交換するときは必ず、指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操作安定性に影響をおよぼすおそれがあるので、使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因をなることがあります。
取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。

異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

◆タイヤの溝の深さ

タイヤ溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤえお交換してください。
タイヤに異常があるときは販売店で点検、整備を受けてください。

定期点検整備

定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務付けられています。

原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。

警　告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容は、販売店に御相談ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または、販売店で必ず整備を行ってください。

警　告

点検するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦な足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかどうか点検します。

異常があるときは、販売店で点検、整備を受けてください。

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密封式です。

バッテリー液の補充は不要です。

バッテリーに異常があるときは、販売店で点検、整備を受けてください。

注　意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。隅々まで掃除すれば、普段気づかない異常箇所や磨耗が発見でき、故障の予防にもなります。

サービスデータ

仕様				
車名	SHOCK		最高速度	45Km
型式	TDR166ZJ		走行距離（充電100%時）	50Km（30Km/h定地走行テスト値）
全長(mm)	1,867		電圧	48V-12V
全幅(mm)	744		バッテリー容量	12V17AH×4（6-DZM-17）
全高(mm)	1,200		バッテリー充電時間	8時間（0→100%）
軸幅(mm)	1,338		最小回転半径(m)	1.85
最低地上高(mm)	137		キャスター角(度)	28°30'
シート高(mm)	713		トレール量(mm)	72
車両重量(Kg)	89		タイヤ(前)	3.00-10 42J
乗車定員(人)	1		タイヤ(後)	3.00-10 42J
モーター出力	500W		ブレーキ形式(前)	ディスク（油圧式）
原動機形式	V5		ブレーキ形式(後)	ドラム（リーディングトレーリング）
登録種目	第一種原動機付自転車		ヘッドライト	1灯用 12V25/25W 2灯用 12V18/18W×2
備考				

□走行距離は、走行時の気候、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。
□本仕様は予告なく変更する場合があります。

ECO Electric Scooter

YM's Japan inc

ECO Electric Scooter

SHOCK
by YM's